



7月20日現在、ひとめぼれの草丈は平年より長く、莖数は概ね平年並で推移しています。葉色は期待葉色値（減数分裂期：35～37）をやや下回っています。幼穂長は平年より1日程度進んでいて、減数分裂期に達しています。

だて正夢の草丈、莖数は概ね平年並、葉色は平年を下回っています。幼穂長は平年を下回り、減数分裂期には達していません。金のいぶきの葉色は期待葉色値（減数分裂期：30～32）となっています。幼穂長は平年を大きく上回り、ひとめぼれと同様、減数分裂期に達しています。

## 2 今後の管理

### (1) 生育ステージの予測

アメダスの平均気温を用いた生育ステージの予測では、管内平均出穂期は7月28日頃です。

※「稲作通信 第6号」に掲載した出穂期の予測日よりも早まっているため注意しましょう。

生育ステージの予測値（7月20日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
出穂期	7/19～7/23	7/21～7/25	7/23～7/27	7/26～7/30	7/30～8/4	8/4～8/9

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉～3.5葉として予測。平均気温は7月19日までの米山アメダスの実測値。

幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1～2mm	
減数分裂期	始期	15日前	3～4cm	-10cm
	終期	10日前	8～10cm	±0cm

### (2) 水管理

①出穂前までは間断かん水を基本とします。

②出穂期は浅水管理とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かん水や飽水管理を行きましょう。

#### 【高温時の水管理】

出穂後、高温登熟による品質低下を軽減するため、必要に応じて「保水管理」、「昼間深水・夜間落水管理」、「掛流しかんがい」を実施してください。

### (3) いもち病対策

<7月10日 宮城県病害虫防除所>防除情報第2号より

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和5年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/26	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	○	●	●	-	●	●	●	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-
6/29	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	-	-	-	-	-	-
7/1	●	●	●	●	●	●	●	●	-	-	●	●	-	-	-	●	-	-
7/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7/3	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/6	○	●	●	●	-	●	-	●	-	-	-	●	-	-	●	●	●	●
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/9	△	●	●	●	●	●	●	●	●	-	●	-	-	-	-	●	-	-
7/10	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	●	-	-	-	-	-	-	-
7/11	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	?	-	-	●	-	-
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/15	-	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○	-	○	○	○	○	○
7/16	●	●	●	○	○	○	○	○	●	●	-	-	○	-	-	●	-	○
7/17	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-

#### 葉いもち

・定点調査ほでは、6月下旬以降発病株率及び株あたりの病斑数が急増し、いずれも平年を上回って推移している。

・BLASTAMによる感染好適条件の推定では、7月15日、16日に県内の複数地点で好適条件及び準好適条件が出現している。

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件からはずれている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

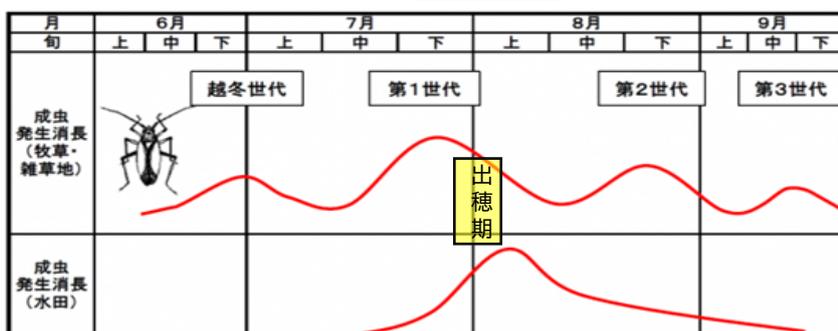
いもち病の予防剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下してくる時期です。葉色の濃い場合は上位葉の葉いもちの発生に注意しましょう。また、上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源となります。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談ください）。穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょ。

#### (4) 紋枯病対策

防除時期：出穂直前（穂ばらみ期～出穂期）  
いもち病との同時防除が可能な薬剤もあります。

#### (5) 斑点米カメムシ類の防除

薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回が基本です。



## 【直播栽培】

### 1 生育状況

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数 (本/m <sup>2</sup> )	7月10日				7月20日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	幼穂長(mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色(GM)	幼穂長(mm)
1	ひとめぼれ	ブラ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月24日	前年比・差 113%	174	62.7	510	36.6	78.6	654	36.2	7.6	
						97%	112%	99%	-1.1					114%
2	ササニシキ	ブラ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月20日	前年比・差 過去2か年平均比・差	113	48.4	439	39.7	69.9	449	36.0	3.6	
						141%	92%	87%	2.1					100%
3	つきあかり	ブラ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (輔波)	4月24日	前年比・差 過去2か年平均比・差	137	66.7	340	38.1	78.7	308	35.9	77.1	
						109%	101%	89%	-1.3					92%
						96%	103%	65%	-0.5	102%	64%	-1.4	54.1	

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。  
※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

7月20日現在、ひとめぼれの草丈、茎数は平年を上回っています。葉色は3ほ場とも平年を下回っています。

ササニシキの幼穂長は平年並となっています。ひとめぼれ、つきあかりの幼穂長は平年を上回っており、特につきあかりは生育が進んでいます。

## 2 今後の管理

### (1) いもち病対策

7月14日に、県米づくり推進本部からも注意を呼びかける通知が出されています。  
天候や品種によっては多発することも予想されます。発生に注意!!!

上位葉の葉いもちは、穂いもちの発生源になります。穂いもちの予防防除を行った場合でも、葉いもちの病斑を確認した場合、直ちに茎葉散布剤による防除を行いましょ。また、追肥をした場合は、薬剤散布を併せて行いましょ。

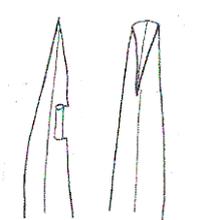
## (2) イネツトムシ (イチモンジセセリ)

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。

防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期(7月下旬～8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除をしましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

## (3) 斑点米カメムシ類の防除

出穂期は移植栽培より7～10日遅くなりますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。

## (4) 追肥

基肥一発肥料を施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、減数分裂期追肥をしましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分含有率(%)	施用時期	施用現物量(化学肥料窒素成分量)
NK化成C68号	16.0	減数分裂期(出穂10～15日前)	10kg/10a (1.6kg/10a)

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。